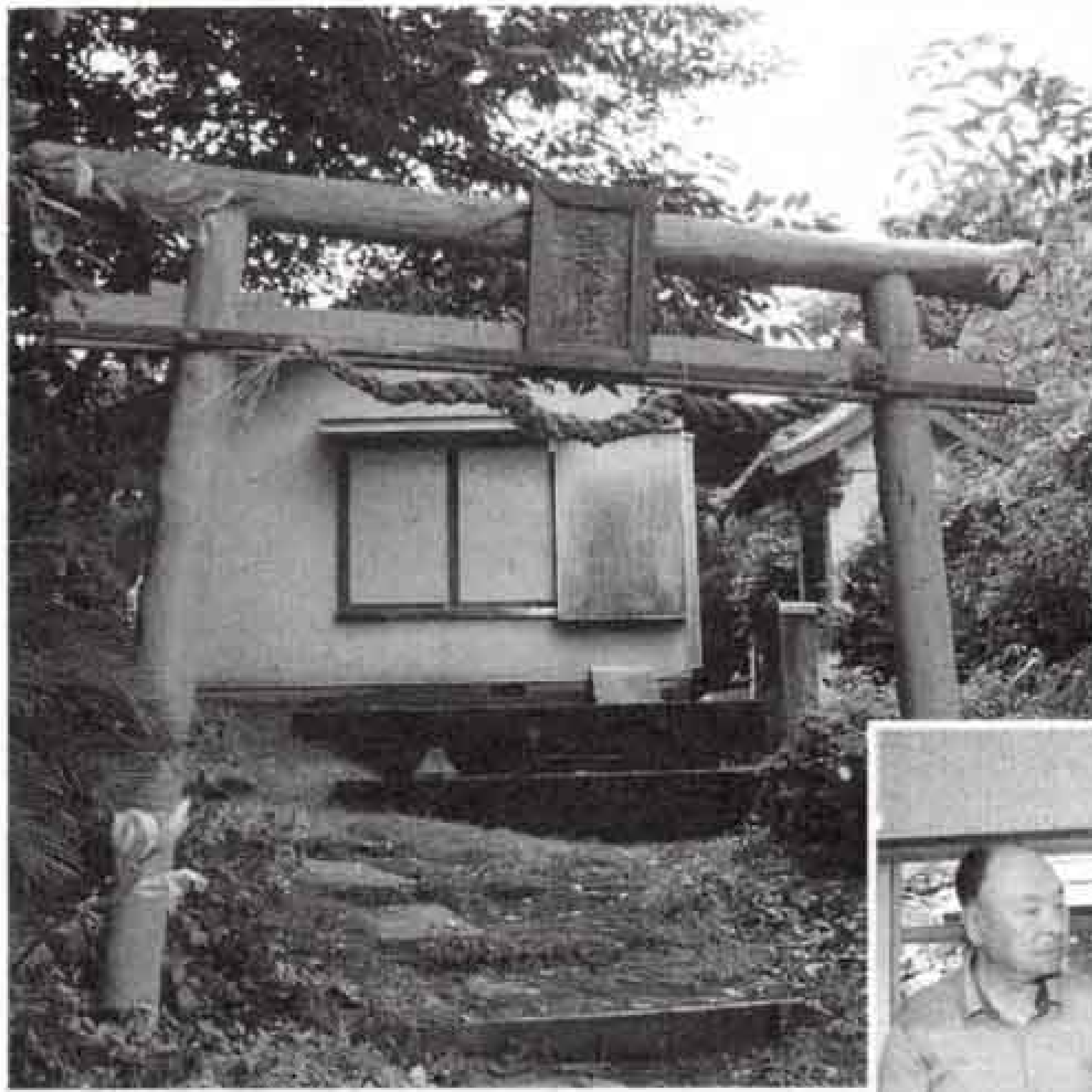


富士の民話 あれこれ

中丸の

弁天さん

田子浦地区の中丸に弁天さんを祭った小さな神社があります。弁天さんは漁師が多かった昔、大切な海の守り神でした。
今回は、この中丸の「弁天さん」についてご紹介します。



▲「弁天さん」を祭る弁天神社



▲大正時代に使われていたのぼり

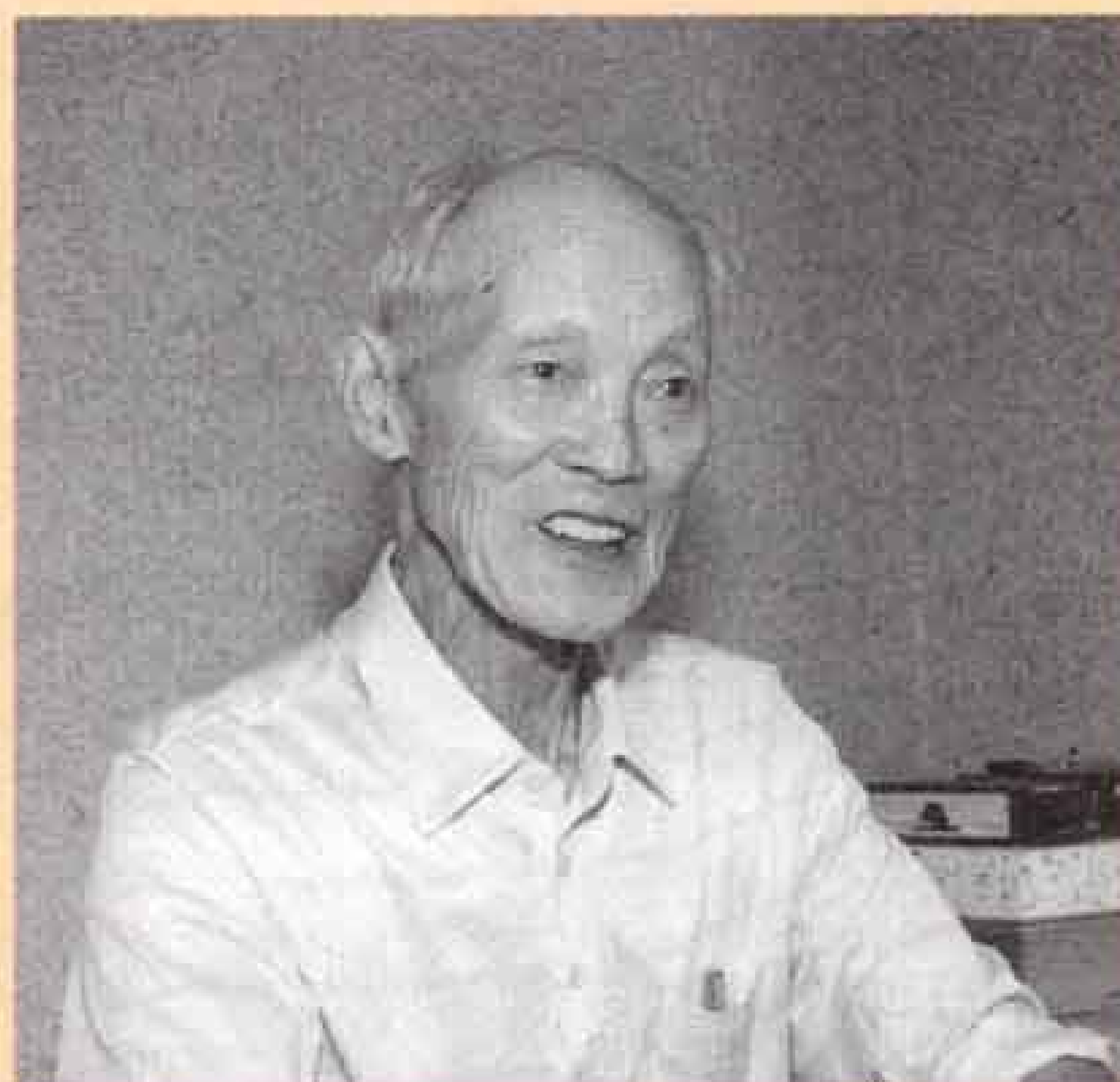
昔、中丸の村には漁師が大勢住んでいました。ある年、魚がほんの少ししかとれなくなり、人々は暮らしに困ってしまいました。そこで漁師たちは、何とかして魚がたくさんとれる方法がないかと相談して、近くの小さな丘に弁天さんを祭りしました。そして、毎日お供え物をするなどして、一生懸命お祈りしました。

幾日かたつて、たくさんの魚がとれるようになりしました。村の人々は「これは弁天さんのおかげだ」と言って大喜びし、お礼のお参りをしました。

またあるとき、ものすごい台風が来て、大波が家のすぐ近くまで押し寄せてきました。村の人々は夢中で弁天さんの丘へ逃げました。海はまるで魔物が暴れ狂っているように荒れ、人々は恐ろしさに震えるほどでした。そのとき、「弁天さん、助けてください」と、だれかが言いました。みんなも声を合わせてお願いしました。すると急に荒れ狂っていた大波は静まり、みんな助かりました。人々は弁天さんに大変感謝し、より弁天さんを大切に祭るようになりました。



「弁天さん」は江戸時代の終わりごろから祭られたそうです。当時は竹やぶの中に石のほころぎがあり、これに向かって題目を唱え、海難事故防止や無病息災、村内安全を祈っていたということです。また、現在のほころぎの中には、大正時代に使われていたのぼりなどが大切に残されています。
私たちが子供のころまでは、題目を唱えてお祈りする風習が続いていました。弁天さんは高台にあるので、題目の太鼓の音が村の隅々まで届いたものです。夏休みになると、子供たちは毎日、むしろと夏休みの宿題を持って弁天神社に集まりました。
今でも盆踊りの会場ともなったり、お祈りする人もいたり、みんなの憩いの場となっています。



中丸にお住まいの
味岡 政彦さん

こちら編集室

お盆に小学校の同窓会を計画し、私も幹事の一人となってしまった。皆と会うのは卒業以来何と33年ぶり。事前の打ち合わせで話をしても、相手の顔は何となくどこか見覚えあるが名前が出てこない。しかし何かの拍子に思い出が一致すると、決めなくてははいけな

とも忘れて昔話に花が咲いてしまう。33年の月日の中で皆さまさまざまな人生を味わい、もはや中年となり、腹も出、しわもふえ、頭の毛も白くなったり薄くなったりしてしまいましたが、一瞬にして少年時代のあの日に戻してくれる。皆との再会が楽しみのお盆です。

人口 238,063人 (前月比+193)
男 118,518人 (+59)
女 119,545人 (+134)
世帯 78,777世帯 (+125) 7月1日現在
編集・発行 富士市総務部広報広聴課
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100 ☎51-0123

